



農委だより 常総

平成24年8月1日発行
第 13 号

〒303-8501
茨城県常総市水海道諏訪町3222-3
電話 0297-23-2111(代表)

発行／常総市農業委員会

編集／農委だより常総編集委員会



フクロウの雛

古間木の稲葉忠男さん宅の樹齢400年のケヤキに巣を作りました。ここ数年毎年春になると巣作りをし、5月の連休前後に巣立つていくそうです。親はいつも近くで雛を見守り、飛ぶときには音もなく、近づいてくるとのことです。この写真のように、2羽揃ったところを撮影するのは大変だとのこと。

倉倉鈴横橋古秋石大川和山倉門菊坂内岡松増相田山渡草喜
野 見
持金木島本谷田塚山田田井持井地入海野崎田山村本辺間山
創一将文武ミ文寛榮静 喜泰 義 浩孝信 と匡幹勝正
子 太 し
一廣之雄夫子男一市枝勇仁仍貢男武之一郎亮子史男一詔明

暑中お見舞い
申し上げます
農業委員
(議席順)

地域の担い手 専業農家を目指して

菅生町 倉持 星太 さん



我が家は普通作の専業農家として、稲作を中心に、麦、大豆、陸稲などを作付けています。

私は就農して四年目を迎えました。当初はほ場の場所を覚えたり、父から一年間の作業の流れを教わったりと、日々の農作業をこなすので精一杯でした。しかし、今は仕事をこなすだけでなく、農業について様々なことを考え、父と意見を交わすようになりました。特に考えていることは、

現在の米価の低迷です。それに対応するには限界がありますが、経営規模を拡大し作業の効率化を心がけています。また、父と共に乾田直播にも取り組んでいます。

直播は、水を張る前のほ場をいかに水平にし、肥料の流出を防ぐなどの技術が鍵となります。始めて四年目になりますが、まずまずの手応えを感じています。しかし、直播の技術はまだまだ未完成であり、これから勉強し、チャレンジし続けたいと思います。

また、麦に関しては畑地の連作による難防除雑草対策として陸稲、大豆の輪作計画を立て少しずつ実行しています。水田転作の麦や大豆は、品質を維持するため、数年毎にほ場を換え作付けています。

このような経営の中農業に關してはまだまだ経験不足で未熟者ですが、これから色々なことにチャレンジして経験を積んでいきたいと思えます。

そして、地域の担い手として勉強、努力を重ね、地域農業の力になっていければと思っています。

五箇小学校の

田植え

五月連休明けの月曜日、恒例の田植えの課外授業がありました。

当日は朝から好天に恵まれ、五箇地区の橋本農業委員も昔のいでたちで、子供たちに田植えのいろはを指導していました。

子供たちも素足で入る田んぼの中で、田植えを楽しんでいました。



消費者として思うこと

箕輪町 杉山 潤子 さん

私の家は農家で、お米と野菜を少し作っています。卒業後、飲食関係の仕事に就きました。だから少し特殊かもしれませんが、

もしもませんが、一次、二次、三次産業を経験した上で、一消費者として思うことがあります。

今日、食の安全安心をよく目にします。天災、人災に關わらず、人の生活に關するモノ、特に身体に關するモノについては誰もが関心事と思えます。テレビやインターネットと情報が多く、「この野菜はやせる」などと情報番組で放映すればその日のうちに売切れてしまうことも少なくありません。地震（原発事故）の影響による風評被害も多く耳にします。

また、外国で加工された食品の事故や国内の生産地偽装も多いのが現状です。何を信じて良いのか、何が正しいのか判らなくなりました。

飲食の仕事をしていた時も

原価の安いモノを使用している店もありました。安過ぎるモノを売るにはそれなりの理由があるのです。

しかし、良いモノばかり買うわけにはいきません。良いモノは高い場合が多いからです。だから、モノの適正価格を見極めなければいけないと思っています。

例えば、曲がったきゅうりですが、それだけで安くなってしまう。味も鮮度も一緒です。農家の方も大変です。こんなご時勢ですから、お互い助け合って理解しあい、信じられるより良い時代が来れば良いと強く想っています。



賃借料情報

平成23年1月から12月までに締結（公告）された賃貸借における賃借料水準（10aあたり）は、次のとおりとなっております。

1 田(水稲)の部

(平成23年4月1日)

締結（公告）された地域名		平均額 (円)	最高額 (円)	最低額 (円)	データ数 (件)
旧水海道市	基盤整備地域	18,500	22,000	7,700	261
	未整備地域	17,900	22,000	7,000	179
旧石下町	基盤整備地域	16,900	27,000	10,000	44
	未整備地域	16,400	22,000	10,000	35
(参考) 常総市平均		17,400			519

2 畑(普通畑)の部

締結（公告）された地域名		平均額 (円)	最高額 (円)	最低額 (円)	データ数 (件)
旧水海道市全域		14,600	22,000	5,000	139
旧石下町全域		10,600	20,000	4,600	21
(参考) 常総市平均		12,600			160

- * 1 この情報は、農地法第52条の規定により、賃借料の目安として提供するものです。
- * 2 この情報は、平成23年中に実際に締結された賃貸借契約の賃借料データを集計したものです。
- * 3 基盤整備地域とは、土地改良などにより圃場整備が完了している地域です。
- * 4 データ数は、集計に用いた筆数です。
- * 5 賃借料を物納支給（水稲）としている場合は、60kgあたり11,000円に換算しています。
- * 6 金額は、算出結果を四捨五入し100円単位としています。
- * 7 「(参考) 常総市平均」の平均額は、各区分の平均値（四捨五入前）をデータ数により加重平均した値です。

【問合せ】 農業委員会事務局 23-9013・9018



当日は、那珂市農業委員会の会長さんを始め、事業主体の農業生産法人の会長さんからも事例発表や現地での説明等を受けました。

現地は約12haの一団の農地で、何年も耕作されていなかったため、竹や木の伐採が大変だったそうです。これか

耕作放棄地解消のモデル地区を視察

那珂市農業委員会



また六次産業化法の認定を受け、茨城の新しい特産品として、本州では珍しい「青パイヤ」を栽培し、食品加工、直売している「やぎぬま農園」も視察しました。

青パイヤは見るのも初めての方も多く、様々な調理法により加工された商品を食べ比べていました。

また、苗を購入し自宅で栽培する方もおり、たくさん実るのか秋の収穫が楽しみです。

なくそう 農地の無断転用

農地はかけがえのない財産です

農地を農地以外にする場合は、農地法の許可が必要です。

- ◎農家住宅・自己住宅の建築及び拡張する場合
- ◎農地に店舗等を建築する場合
- ◎農地を駐車場や、資材置場に使用する場合
- ◎農地に植林をする場合

農地の埋立をする場合は、農地法のほかに市又は県の「土地埋立等の規制に関する条例」の許可も必要です。

農地改良等行う場合は、地元農業委員、農業委員会事務局までご相談下さい。

農業者年金に 加入しましょう

年金加入で、農業経営と安心で豊かな老後の生活がたっぷりサポートしましょう。

農業者の方なら広く加入できる担い手積み立て年金です。

- ◎少子高齢化に強い年金です。
- ◎保険料の額は自由に決められます。
- ◎終身年金で80歳までの補償付です。
- ◎公的年金ならではの税制上の優遇措置があります。
- ◎農業の担い手には手厚い政策支援（保険料の国庫補助）あります。

詳しくは農業委員会事務局までご相談ください。

今回は、馬場の高島一さんを訪問しました。

高島さんは、石下地区でも作付品種の一番多い農家だそう、春の春レタスから始まり春白菜、ブツキーニ、スイカ、メロン、秋レタス、キャベツ、冬白菜、チンゲン菜と、一年を通じて常に販売できる作物を作っているそうです。

今出荷しているのはスイカで、「夏の香り」という新しい品種を昨年から始めたそうです。大玉スイカで、重さ7キロ、バスケットボール位の大きさになる果肉の赤いスイカです。おいしいスイカを作るには、水、温度及び肥培管理が重要で、特に水の管理が良し悪しのポイントだそうです。

また、この夏からメロンの



出荷も始まりますが、アールスメロンという品種で、ネットのきれいなメロンにより等級（価格）が決まるため、一株に一個だけ実をつけて栽培するそうです。やはり水と肥培管理が重要で、ネットが出る時期に根本に水をさすのがポイントとなるそうです。両方ともJA常総ひかりのブランドで東京市場に出荷しており、静岡や夕張メロンよりもおいしいか、それにも劣らないと高島さんは話していました。一度食べてみたいものです。

今後は後継者の長男が、農業経験を積んで作物を見る目を養い、農業経営者として自立（経営の確立）することが希望だそうです。

編集後記

「農委だより常総」が全国農業会議所主催の全国農業新聞農業委員会だよりコンクールにて全国農業新聞賞を受賞しました。農家の方による記事、農家に密着した情報誌としての評価から受賞となったものです。

また、7月13日編集委員研



編集委員研修の様子

本社来訪

◇編集センター

▽常総市農業委員会会長 倉持

創一さん▽農委だより編集委員長

倉金一廣さん▽同編集委員 山

野井喜仁さん▽同 和田勇さん▽同

川田静枝さん▽同 古谷ミチ子

さん▽同 岡野孝一さん▽同 門井

貢さん▽同 大山榮市さん▽同 相

山とし子さん▽同 菊地義男さん

(茨城新聞 7月14日号より)

営農と暮らしに役立つ

全国農業新聞

発行日 毎週金曜日

購読料 一月六百元

申込みは農業委員会へ